



最初にお読みください

CentreCOM® 8324XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8324XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.6.2

2 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン 2.6.1 pl01 から 2.6.2 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

2.1 MDI/MDI-X 固定設定

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

MDI/MDI-X 自動切替機能の有効 / 無効を設定する ENABLE/DISABLE SWITCH PORT AUTOMDI コマンド、および MDI/MDI-X 自動切替機能が無効のポートに対して MDI または MDI-X を指定する SET SWITCH PORT コマンドの POLARITY パラメーターが追加されました。デフォルトは MDI-X です。

3 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン 2.6.1 pl01 から 2.6.2 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

3.1 ADD VLAN PORT コマンド GROUP パラメーターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」

Protected Ports VLAN でポートの属性を指定する ADD VLAN PORT コマンドの GROUP パラメーターに AUTO が指定できるようになりました。AUTO を指定すると、グループ番号がポートごとに自動的に割り当てられます。

3.2 CREATE DHCP RANGE コマンドの PROBE パラメーターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」

CREATE DHCP RANGE コマンドに IP アドレスの使用状況確認を ICMP で行うか ARP で行うかを指定する PROBE パラメーターが追加されました。デフォルトは ICMP です。また、DHCP レンジの PROBE パラメーターの設定を変更するための SET DHCP RANGE コマンドが追加されました。

3.3 CREATE/SET TRIGGER REBOOT コマンドの REPEAT パラメーターについて

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「トリガー」

CREATE/SET TRIGGER REBOOT コマンドの REPEAT パラメーターはサポート対象外となりましたので、ご了承ください。

4 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.6.1 pl01 から 2.6.2 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 本製品にログインしたままで、セットアップツールを使用して本製品のソフトウェアをバージョンアップしようとしても、エラーメッセージが表示されて、バージョンアップを実行することができませんでしたが、これを修正しました。
- 4.2 CREATE DHCP RANGE コマンドで DHCP レンジに無効な IP アドレスを設定し、次に DELETE DHCP RANGE コマンドで該当 IP アドレスを削除しようとすると、本製品がクラッシュしていましたが、これを修正しました。
- 4.3 DHCP サーバー機能使用時、DELETE IP INTERFACE コマンドを実行すると、同コマンドを実行したのとは別の VLAN において、DHCP クライアントが IP アドレスを取得できなくなる場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.4 DHCP サーバー機能使用時、リレーエージェント経由で受信したリース延長要求に対し、DHCPNAK メッセージを返送していましたが、これを修正しました。
- 4.5 SHOW DHCP CLIENT コマンドで表示される DHCP レンジ内の IP アドレスのテーブルには Client ID が表示されていなくても、内部で保持している DHCP テーブルにクライアントの割り当てが残っている場合、ADD DHCP RANGE コマンドで静的割り当てが行えないことがありますが、これを修正しました。
- 4.6 DHCP サーバー機能使用時、静的割り当てエントリーが offered (オファー中) のときに、DESTROY DHCP RANGE で DHCP レンジを削除し、CREATE DHCP RANGE で再生成すると、特定の DHCP メッセージを受信したときに本製品がクラッシュする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.7 DISABLE DHCP コマンドで DHCP サーバー機能を無効にした後、ENABLE DHCP コマンドを実行すると、IP アドレスが reclaim (回収中) の状態から復帰せず、割り当てられなくなる場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.8 DHCP サーバー機能使用時、offered (オファー中) の IP アドレスを DELETE DHCP RANGE で削除した後、再度同一クライアントから DHCP discover を受信すると、Client ID のない不正なエントリーが作成されていましたが、これを修正しました。
- 4.9 DHCP サーバー機能において、Server ID が不正な DHCP メッセージを無視せずに、不正な動作をする場合がありますでしたが、これを修正しました。

- 4.10 DHCP サーバー機能使用時、DHCP NAK メッセージを送出しない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.11 自インターフェースの IP アドレスを持つ ARP request を受信した場合に、該当の IP アドレスが ARP テーブルに登録されていましたが、破棄するよう修正しました。
- 4.12 DISABLE STP PORT を実行し、次に ENABLE STP PORT を実行すると、スタティック ARP エントリーが削除されていましたが、これを修正しました。
- 4.13 不要な ARP エントリー (255.255.255.255) が ARP テーブルに表示される場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.14 スタティック ARP エントリーを削除したときに送出される ARP request に対して、ARP reply を受信しても ARP キャッシュテーブルに登録されないことがありますが、これを修正しました。
- 4.15 エージングタイムの経過や端末の移動により、FDB 上のエントリーが削除されたときに、ARP キャッシュテーブル上にエントリーが残ってしまう場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.16 IP オプションの Length が「0」のパケットを受信すると、本製品がクラッシュする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.17 不正な (spoofed/from incorrect network) ARP request/reply 受信時に、SHOW IP COUNTER=ARP コマンドで表示される「arpRxDiscPkts」が正しくカウントされるよう修正しました。
- 4.18 ADD/SET IP INTERFACE コマンドで、他の VLAN と重複するネットワークアドレス (IP アドレス / ネットマスク) が指定できていましたが、これを修正しました。
- 4.19 ADD IP ROUTE コマンドの NEXTHOP パラメーターに自インターフェースの IP アドレスを指定した場合は、エラーでルーティングテーブルに登録されないよう修正しました。
- 4.20 IGMP 有効時、Last Query Interval Timer (retransmit timer) が起動中に Leave Group メッセージを受信すると、Last Query Interval Timer が更新されていましたが、これを修正しました。
- 4.21 IGMP と IGMP Snooping を併用し、本製品が IGMP Querier として動作している状態で、他のスイッチからの Query メッセージを受信したことによって登録された All Group のエントリーがタイムアウトし、再度、他のスイッチから Query を受信して All Group のエントリーが登録されると、IGMP Snooping でグループが組まれていないポートへマルチキャストフレームがフォワードされてしまうことがありますが、これを修正しました。
- 4.22 IGMP Snooping 有効時、大量のマルチキャストグループが登録された後でこれらのグループエントリーがタイムアウトするとレポートしていましたが、これを修正しました。

- 4.23 IGMP 有効時、作成した VLAN の数によって、マルチキャストグループが本製品のサポートする 255 エントリーまで登録されない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.24 4,294,967,296 パケット以上受信した場合に、SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドを実行して表示される受信カウンターの値が、実際の値とずれることがありますが、これを修正しました。
- 4.25 ENABLE PORTAUTH PORT コマンドで Supplicant ポート (TYPE=SUPPLICANT) として 802.1X 認証機能を有効にした後、タイプを Authenticator ポート (TYPE=AUTHENTICATOR) に変更すると、FDB に不明な MAC アドレスが登録されていましたが、これを修正しました。
- 4.26 802.1X 認証機能において、RESET PORTAUTH PORT MULTIMIB コマンドで未認証の Supplicant 情報が正しくリセットされるよう修正しました。
- 4.27 802.1X 認証機能有効時、本製品起動直後、ケーブルを接続していない Authenticator ポートに対して SHOW PORTAUTH PORT コマンドを実行すると、認証が行われる前にもかかわらず、「Port Status」が authorised と表示されていましたが、正しく unauthorised が表示されるようになりました。
- 4.28 802.1X 認証機能有効時、Windows 2000 Server (IAS) を RADIUS サーバーとして使用している場合、本製品の Supplicant ポートが認証されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.29 802.1X 認証機能が無効のまま、SET PORTAUTH PORT SUPPLICANTMAC コマンドで CONTROL パラメータの設定を変更しても、現在の設定に反映されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.30 802.1X 認証機能において、クライアントが RADIUS サーバーに送る Access-request (認証要求) に含まれる NAS-Port のアトリビュートの値が、「物理ポートの番号 -1」になっていましたが、物理ポート番号に修正しました。
- 4.31 RRP Snooping 有効時、マスターポートになっているポートで 802.1X 認証機能を有効にすると、マスターポートのステータスが残ってしまう場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.32 接続先のポートと 10M Half または 100M Half でリンクしている場合に、本製品のポートが PAUSE フレームを受信すると、フローコントロールが動作していましたが、これを修正しました。
- 4.33 ポートセキュリティの Dynamic Limited モードと FDB スタティックエントリーの自動登録機能併用時、条件にマッチした MAC アドレスがすでに別のポートでスタティック登録されているにもかかわらず、再度登録されていましたが、これを修正しました。

- 4.34 トランクグループ内のマスターポート以外のポートで受信した IGMP Membership Query メッセージがマスターポートに送信されていましたが、これを修正しました。
- 4.35 トランクグループの作成 / 削除を繰り返す行くと、7 個目以降のグループのポートトランッキングが正しく動作しなくなりましたが、これを修正しました。
- 4.36 通信速度が 10M Half または 10M Full に設定されたポートでパケットを受信中に、SET SWITCH PORT コマンドで、通信モードを 10M Half または 10M Full に設定すると、本製品がクラッシュする場合がありますが、これを修正しました。
- 4.37 ポートミラーリング使用時、タグなしパケットがタグ付き (VLAN Only) のソースポートから入力されると、ミラーポートからはタグ付きの状態で出力されますが、設定を保存し再起動すると、タグなしの状態で出力されていたため、これを修正しました。
- 4.38 SHOW SWITCH PORT コマンドに、SUMMARY オプションを付けて実行したときに表示される MDI/MDI-X の状態が、実際に接続されている状態とは異なることがありましたが、これを修正しました。
- 4.39 ポートトランッキングと RRP Snooping の併用時、一部のポートをトランクグループから削除すると、削除されたポートとグループ所属ポートの間で、(RRP Snooping の) マスターポートが切り替わらないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.40 パケット受信中のポートに対して、SET SWITCH PORT コマンドで RELEARN パラメーターを OFF から ON (Dynamic Limited モード有効) に変更すると、FDB に送信元 MAC アドレスが登録されず、すべてのパケットが破棄されていましたが、これを修正しました。
- 4.41 ポートトランッキングと RRP Snooping の併用時、一部のポートをトランクグループから削除し、グループ所属ポートから削除されたポートへと (RRP Snooping の) マスターポートが切り替わった場合、切り替わった後のマスターポート (トランクグループから削除されたポート) の仮想 MAC アドレスが FDB から削除されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.42 ポートセキュリティ対象外のポートで学習済みの MAC アドレスを、ポートセキュリティの対象ポートで受信した後に、セキュリティ対象ポートのダイナミックエントリーが削除される要因が発生 (学習可能な MAC アドレスの上限に達する、または RESET SWITCH FDB PORT コマンド実行など) すると、ポートセキュリティ対象ポートで学習された MAC アドレスが FDB から削除されてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.43 スパニングツリーの Rapid モード有効時、新規作成した STP ドメインの所属 VLAN にタグ付きポートを割り当てると、DISABLE STP PORT コマンドの設定が削除されていましたが、これを修正しました。

- 4.44 スパニングツリーの Rapid モード有効時、SET STP コマンドを DEFAULT オプション付きで実行すると、DISABLE STP PORT コマンドで STP を無効にしていたポートで通信ができなくなっていました、これを修正しました。
- 4.45 スパニングツリーの Rapid モード有効時、dot 1dStp に対して正しい値を返すよう修正しました。
- 4.46 スパニングツリーの Rapid モードが有効なポートを DISABLE STP PORT コマンドで無効に設定し、次に STP ドメインを DIABLE STP コマンドで無効にしてから、再度 ENABLE STP コマンドで有効にすると、該当ポートで通信ができなくなりましたが、これを修正しました。
- 4.47 複数の STP ドメインに所属するポートを DISABLE STP PORT コマンドで無効に設定し、再度 ENABLE STP PORT コマンドで有効にしても、すべての STP ドメインにおいて有効にならない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.48 スパニングツリーの Rapid モードが有効なポートをタグ付きポートに設定した場合、該当ポートで Rapid STP が正しく動作しない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.49 ハードウェア IP フィルター有効時に PROTOCOL=IGMP を指定しても、IGMP メッセージがフィルタリングされませんでした、これを修正しました。
- 4.50 本製品宛通信時、スタティックエントリを登録したポート以外でも通信ができていましたが、これを修正しました。
- 4.51 既定回数（デフォルトは 5 回）連続してログインに失敗し、一定期間（デフォルトは 10 分）ログインプロンプトが表示されない状態になってから、約 10 分後本製品がクラッシュする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.52 NTP 有効時、本製品に日付と時刻が設定されていないと、NTP サーバーから時刻を取得することができませんでしたが、これを修正しました。
- 4.53 定時トリガーと NTP の併用時、定時トリガーの起動時刻と NTP の時刻取得のタイミンクが重なると、該当トリガーが起動されませんでした、これを修正しました。
- 4.54 SET NTP UTCOFFSET コマンドに NONE または DEFAULT を設定した場合に、協定世界時 (UTC) が正しく表示されるよう修正しました。
- 4.55 電圧、温度センサーの読みとりが失敗したときに、Fault LED が点灯しないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.56 SET TELNET コマンドの INSERTNULL パラメーターに ON を設定しても、設定が有効にならない場合がありますでしたが、これを修正しました。

- 4.57 CREATE TRIGGER コマンドの REPEAT パラメーターに回数を指定した後、設定を保存すると、設定ファイル上の REPEAT パラメーターの値が入力時とは異なる場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.58 CREATE TRIGGER コマンドの REPEAT パラメーターに回数を指定し、トリガーが指定回数実行された後で設定を保存し、SET CONFIG コマンドで起動時設定ファイルとして再起動すると、REPEAT の設定値が不正な値と判断され、トリガーの設定が反映されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.59 クラッシュ / リポート発生後に、再起動トリガーが正しく実行されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.60 CREATE TRIGGER REBOOT コマンドに RESTART または ALL を指定した場合、RESTART REBOOT コマンド実行による再起動と、RESTART SWITCH コマンド実行による再起動で、syslog サーバーに転送される情報が異なりましたが、これを修正しました。
- 4.61 Telnet クライアントから RESET ASYN=0 コマンドを実行して、コンソールターミナル（ローカル）からログインしているユーザーを強制的にログアウトさせても、SHOW USER コマンドで、該当ユーザーが「Active (logged in) Users」に表示されていましたが、これを修正しました。
- 4.62 SHOW USER RSO コマンドで表示される「Failed logins」と「Last failed login」が正しくカウントされるよう修正しました。
- 4.63 ADD LOG OUTPUT/SET LOG OUTPUT コマンドで、「MODULE=SWITCH」と指定すると、設定が正しく反映されないため syslog サーバーへの出力ができませんでしたが、これを修正しました。
- 4.64 ログに 5000 件メッセージが登録された状態で、SHOW DEBUG コマンドを入力すると本製品がクラッシュする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.65 SHOW FILE コマンドでファイル名にワイルドカードを使用すると、DEVICE パラメーターが正しく動作しませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.66 SET ASYN コマンドの PARITY パラメーターに ODD を設定し、ターミナルソフトの設定を ODD に変更しても、画面表示が正しくなされませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.67 PURGE ASYN コマンドで ALL を指定しても、すべての非同期ポートの設定が工場出荷時の状態に戻っていませんでしたが、これを修正しました。
- 4.68 SET ASYN コマンドで、NAME、PROMPT、SERVER パラメーターに入力可能な最大文字数（15 文字）を超えた文字列を指定したときに表示されるエラーメッセージに誤りがありましたでしたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン 2.6.2 には、以下の制限事項があります。

5.1 IGMP について

 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

- Last Query Interval Timer (retransmit timer) が起動中に Membership Report メッセージを受信しても、Refresh Timer は更新されませんが、Last Query Interval Timer が停止しないため、Group Specific Query を送信します。
- NONQUERIER が Leave Group メッセージを受信すると RT (Refresh Timer) を更新します。

5.2 IGMP Snooping について

 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」

1つのポートに同一グループの複数メンバーが登録されている場合、そのうち1つのホストからの Leave Group メッセージを受信すると、他のホストがいるにもかかわらずグループから削除されます。

5.3 802.1X 認証について

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「802.1X 認証」

- SNMP マネージャーで、dot 1xAuthAuthControlledPortControl の情報を変更 (Set) した後、設定を保存すると、設定の変更が設定ファイルに反映されません。Authenticator ポートの状態を手動で変更する場合は、SET PORTAUTH PORT コマンドの CONTROL パラメーターで指定してください。
- Authenticator ポートから IGMP Query メッセージが送信されません。その場合には、IGMP Snooping を無効に設定してください。
- Multi-Supplicant モードの Authenticator ポートにおいて、サービスパック 2 (SP2) を適用した Windows XP を Supplicant として使用すると、ログインダイアログが表示されないことがあります。

5.4 スパニングツリープロトコルについて

 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」

- STANDARD モード (SET STP コマンドの MODE パラメーターで設定) のときに、ENABLE STP コマンドを実行すると、DISABLE STP PORT コマンドの設定が削除されます。
- RAPID モード (SET STP コマンドの MODE パラメーターで設定) のときに、DISABLE STP PORT コマンドで STP を無効にしていたポートに、SET STP コマンドで RSTPTYPE パラメーターを変更しても、現在の設定に反映されません。
- RAPID モードで STP ドメインを複数作成した場合には、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存するのではなく、SHOW CONFIG コマンドで DYNAMIC オプションを指定して現在の設定内容を表示し、その内容を EDIT コマンドで設定ファイルに貼り付けてください。CREATE CONFIG コマンドで設定を保存すると、正しく動作しないことがあります。

- STANDARD モードとRAPID モードの両方のSTP ドメインに属するポートにおいて、SET STP PORT コマンドでPATHCOST パラメーターを変更すると、エラーメッセージが表示されます。ただし、動作上の問題はなく、現在の設定にも正しく反映されます。エラーメッセージを表示させないようにするには、SET STP PORT コマンドで、STP ドメインとポートの両方を指定してください。
- STANDARD モード時のポートステータスは、ポートのリンクアップ時およびリンクダウン時においても、常に Forwarding 状態となります。冗長構成時の経路の切り替えは、ポートステータスの変化ではなく、MaxAge(デフォルト 20 秒)の Expire によって遷移しますので、ご注意ください。

5.5 SNMPについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

イーサネット MIB の dot3StatsCarrierSenseErrors の値が取得できません。

5.6 ログについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

DHCP サーバー機能使用時、クライアントに IP アドレスを割り当てると不正な ARP キャッシュログが記録されます。

6 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足

取扱説明書、および「CentreCOM 8316XL/8324XL コマンドリファレンス 2.6 (Rev.C)」の補足事項です。

6.1 DHCP サーバー機能について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」

DHCP クライアントからのオプション 57(Maximum DHCP Message Size) メッセージを受けられません。

6.2 フラディングレートについて

10/100Mbps ポートが 24 ポートリンクした状態で、拡張モジュールの 1000Mbps ポート (ポート 25) からフラディングパケットを送信すると、1000Mbps ポート (ポート 26) から送信されるパケットの転送率が下がる場合があります。

7 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。
太字はコマンド名、細字は該当コマンドのパラメーター名です。

```
SHOW EXCEPTION
SHOW DEBUG [STACK]
SHOW BUFFER [SCAN] [QUEUEPOINTERS]
SHOW FLASH FFS
CLEAR FLASH TOTALLY
DELETE NVS BLOCK [INDEX]
CLEAR NVS TOTALLY
SHOW FFILE VERIFY
SHOW FFILE [DEBUG]
PURGE FILE TRANSLATIONTABLE
ENABLE RADIUS DEBUG
DISABLE RADIUS DEBUG
SHOW RADIUS DEBUG
ENABLE MAIL DEBUG
DISABLE MAIL DEBUG
RESET MAIL
SET MAIL SMTPSERVER=ipaddr
CREATE TRIGGER REBOOT [REPEAT={YES;NO;ONCE;FOREVER;count}]
SET TRIGGER REBOOT [REPEAT={YES;NO;ONCE;FOREVER;count}]

ENABLE SWITCH DEBUG
DISABLE SWITCH DEBUG
SHOW SWITCH DEBUG
ENABLE SWITCH BIST
SHOW SWITCH BIST
SHOW SWITCH MEMORY
SET SWITCH SOCK
SHOW SWITCH SOCK
SET SWITCH PHY
SHOW SWITCH PHY
SHOW SWITCH SWTABLE
SET SWITCH PORT [MODE={MASTER;SLAVE}]
SET SWITCH PORT
[SPEED={1000MFULL;1000MHALF;1000MFAUTO;1000MHAUTO}]
ACTIVATE SWITCH PORT AUTONEGOTIATE
ENABLE PORTAUTH DEBUG PORT
DISABLE PORTAUTH DEBUG PORT

ENABLE VLAN DEBUG
DISABLE VLAN DEBUG
SHOW VLAN DEBUG

ENABLE STP DEBUG [PORT]
DISABLE STP DEBUG [PORT]
```

```
SHOW STP DEBUG
SHOW STP PORT RSTPSTATE

ENABLE SWITCH L3FILTER SWFILTBYPASS
DISABLE SWITCH L3FILTER SWFILTBYPASS

SHOW IP CACHE
SHOW IP CASSI
ENABLE IP DEBUG
DISABLE IP DEBUG
SHOW IP DEBUG
SHOW PING DEBUG
PURGE PING TOTALLY
SHOW TRACE DEBUG
SET IP FLOW
SHOW IP FLOW
ENABLE TCP DEBUG
DISABLE TCP DEBUG
ENABLE IP ICMPREPLYMSG
DISABLE IP ICMPREPLYMSG
SHOW IP ICMPREPLYMSG
ADD IP INTERFACE IPADDRESS [FRAGMENT]
SET IP INTERFACE IPADDRESS [FRAGMENT]
ENABLE IP ROUTE DEBUG
DISABLE IP ROUTE DEBUG
SHOW IP ROUTE DUMP
ENABLE PING POLL DEBUG
DISABLE PING POLL DEBUG

ENABLE IP IGMP DEBUG
DISABLE IP IGMP DEBUG
SHOW IP IGMP DEBUG

ENABLE MLDSNOOPING DEBUG
DISABLE MLDSNOOPING DEBUG

ENABLE DHCP [BOOTP] [DEBUG]
DISABLE DHCP [BOOTP] [DEBUG]

ENABLE TEST INTERFACE
DISABLE TEST INTERFACE
SHOW TEST [INTERFACE]
RESET TEST INTERFACE
SHOW PKT
SET PKT
START PKT
STOP PKT
MODIFY
DUMP
```

8 取扱説明書・コマンドリファレンスについて

最新の取扱説明書「CentreCOM 8316XL/8324XL 取扱説明書 (J613-M0249-10 Rev.B)」およびコマンドリファレンス「CentreCOM 8316XL/8324XL コマンドリファレンス 2.6 (J613-M0249-11 Rev.C)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのマニュアルが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

取扱説明書のパーツナンバー「J613-M0249-10 Rev.B」は1ページ目(表紙)に、コマンドリファレンスのパーツナンバー「J613-M0249-11 Rev.C」はコマンドリファレンスの全ページ(左下)に入っています。

<http://www.allied-tesesis.co.jp/>